

## FPによるお金の話あれこれ（歴史、思想、蓄財）

—貨幣はコントロール可能か？—

並木和夫

はじめに

素朴な疑問。今のデフレを解消するにはどうすれば良いのでしょうか？金融政策は無効、財政政策も政府に予算・財源が無いため出動できず。古今の著名な経済・財政学者の高等な理論でも解決策が見出せません。

過去、苦肉の策として為政者は貨幣の改鑄、インフレ政策、徳政令（モラトリアム）等で乗り切ろうとしましたが、一時の効果しかなく、再び悪循環に陥りました。しかし、今日の、IT化の時代、善良無私の政府の行動がガラス張りで国民全員が支持し、政府行動を自由に監視できるとしたらどうでしょうか？政府貨幣（中央銀行の銀行券でなく）を発行することにより、デフレは回避できるかも知れません。さて、如何なものでしょうか？

FPの私は、いつも妻に聞かれて返答に苦慮してきました。

不祥、私が学生時代に貨幣理論研究に興味を持ったのは、真珠湾攻撃の頃、世界、日本で正しく、多くの専門家が貨幣・銀行券の人為的なコントロールについて（できるかどうか、どうしたら可能か）激論していた事実を知ったからです。私の手元に、昭和16年6月10日発行の岩波書店発行のフラートン『通貨論』（当時60銭）、原書では『通貨調節論』、現物があります。

小学生時代、切手収集が趣味で、たまたま〇〇兆マルクの切手を入手し、ワイマールの超インフレを知りました。どうしてこうインフレになるのか、どうして退治できないのか不思議でした。

FPを日本に紹介し普及に尽力してきた立場上、お金にまつわる疑問を無視できません。さ〜て。お金の資料館へようこそ。

### 第1話 貨幣の歴史と役割

貨幣はいつ頃、誕生したのでしょうか？

原始的には物々交換であったものが、いつの時代か、どの文明圏でも貨幣なるものを考案しています。石の貨幣、貝殻の貨幣、金属の貨幣、紙の貨幣（紙幣）、今やカード式の貨幣、電子貨幣、地域振興券（地域通貨）の時代へ。。。

## (1) 日本、世界の貨幣史（概要）

|             |                 |  |
|-------------|-----------------|--|
| 縄文時代        |                 | 中国、殷 宝贝貨、布幣<br>前 670 年リデア、 <b>エレクトロン貨</b><br>中国、始皇帝、貨幣統一 |
| 大化の改新       |                 | 円形方孔の半兩錢   |
| 日本初の錢貨      | 683 年           |  |
| 和同開珎        | 708 年           | 以後 12 種の銅貨、順次改鑄 1/10 へ                                   |
| 奈良時代        |                 |  |
| <b>初の金貨</b> | <b>開基勝宝</b>     | 760 年  |
| 平安時代        |                 | 中国北宋、 <b>紙幣「交子」</b> 発行                                   |
| 鎌倉時代        | 明との勘合貿易         | 中国明、永樂通宝<br>モンゴル、世界的な貨幣流通へ                               |
| 室町時代        | 大内、初の撰錢令        | 1485 年 イタリア、全盛期  |
| 戦国時代        | 甲斐、甲州金初の計量貨幣    |  |
| 桃山時代        | 秀吉、天正大判、世界最大の金貨 | 1592 年   |
|             | 伊勢、山田羽書、日本初の紙幣  |  |
| 江戸時代        | 金、銀、銅の 3 貨制度    | イギリス、金匠手形  |
|             | 福井藩 日本初の藩札      | 1661 年 ストックホルム銀行、世界<br><b>初の銀行券発行</b> 1661 年             |
|             | 初の金銀貨改鑄         | 1695 年 イングランド銀行券 1694 年                                  |
| 明治時代        | 太政官札発行          | 1868 年 英国、 <b>金本位制</b> 1816 年                            |
|             | 新金銀貨発行          | 1871 年   |
|             | 国立銀行、兌換銀行券発行    | 1877 年   |
|             | 日本銀行、兌換銀行券発行    | 1885 年 銀本位制  |
|             | 日清戦争の賠償金        | 金本位制に移行  |
|             | 日本銀行券に統一        | 1899 年   |
|             |                 | <b>金本位制崩壊</b> 1931 年                                     |
| その後         | 臨時通貨法           | 1938 年 強制通用力付与   |
| 管理通貨時代      | アルミ貨発行          | 1938 年   |
|             | 錫貨発行            | 1944 年   |
|             | 終戦              | 1945 年 国際通貨基金 1947 年                                     |
|             | 新円切替            | 1946 年   |
|             |                 | スミソニアン体制 1971 年  |
| 現在          | クレジットカード        | ドル、金交換停止   |
|             | 電子マネー、地域通貨      | ユーロ 紙幣・コイン 2002 年  |

## (2) 貨幣の役割（金融理論と経済思想）

貨幣の役割、機能には価値尺度機能、支払機能、交換機能、価値退蔵（保蔵）機能があります。貨幣が、時、場所、機会を超えて普遍的な物々交換を可能にしました。

今や、貨幣は経済活動になくってはならない存在です。

|                |                                       |
|----------------|---------------------------------------|
| 価値尺度機能         | 生糸 1 <sup>キ</sup> は〇〇円と表証             |
| 支払機能<br>(流通機能) | マケドニア兵、ローマ兵への給与支払い（塩⇒金）               |
| 交換機能           | 他通貨、多通貨の両替<br>紙幣、金貨の両替<br>金貨、金兌換紙幣の両替 |
| 価値退蔵機能<br>(保蔵) | 蓄財、外貨準備                               |

以上は経済学、金融論での世界ですが、そのほかにも以下のような機能が思想家として考えられました。

|        |           |        |
|--------|-----------|--------|
| 情報伝達機能 | 神殿への寄付の表証 | 物々交換情報 |
|--------|-----------|--------|

|              |                         |
|--------------|-------------------------|
| <b>宗教的機能</b> | 免罪符 富本銭 共に天国への切符、まじない貨幣 |
|--------------|-------------------------|

|              |   |
|--------------|---|
| <b>時間的機能</b> | ①今の 100 は 1 年後 99 あるいは 101 になる。<br>②ならば、1 年後 1%インフレなら今 99, で取引<br>1 年後 1%デフレなら今 101 で取引 |
|--------------|---|

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| <b>地域機能</b> | ハンセン病院内通貨、炭鉱切符、商店街手形 |
|-------------|----------------------|

経済活動を人体活動とすれば、ともかく、貨幣は血液、企業・家計・銀行・政府部門は心臓、血管、肝臓に相当します。

事実、フランスの医師、ケネーは医師だからこそその著「経済表」において、経済の各部門（領主、農民、商工業者）間の貨幣の流れを説明し、これが、後産業連関分析に発展します。

### (3) 貨幣は増殖するのか（金融理論と経済思想）

|                              |                             |           |
|------------------------------|-----------------------------|-----------|
| W—W                          | 物々交換、等価交換                   |           |
| G—G                          | 両替、等価交換                     |           |
| G—W—G ‘                      | 商業資本の行動方程式                  | マルクス      |
| G—P <sub>m</sub> —W—G ‘<br>A | 産業資本の行動方程式<br>資本家による剰余価値の収奪 | マルクス      |
| G—I—I ‘—G ‘                  | 金融資本の行動方程式                  | ヒルファーディング |

ともかく最初に貨幣ありきです。それも、少量でなく大量の貨幣が必要です。「いわゆる資本の本源的な蓄積」が必要です。貨幣の価値保蔵機能が無くではかなわぬ出来事です。ハプスブルグ家、ロスチャイルド家、ともにスイスの某アパート住まいから身を起こしたものです。日本でも、日野、鴻池、三井、住友しかりです。勤勉と質素儉約の賜物でしかありません。数代に渉る血みどろの努力の賜物です。

貨幣の保蔵はいつの時に、富、権力の象徴、支柱となりました。

歴史的にみて、権力者（王侯貴族、教会）が富を独占し得た訳ではありません。多くは、富の保有者（パトロン）に支持、支援された故に権力を奪取・維持できたというのが真実でしょう。

権力者はややもすると、この支援者を無視したり、裏切ったりするものです。古代ローマ時代、金含有分 98%金貨が崩壊時にはわずか 3%金貨へ。

イングランド王家の歴史もまさにそのとおりです。このため、王家の権力を支援者は、徴税権、通貨発行権を制限、コントロールすべく憲法、法令で制限して王権をコントロールするようになります。

### (4) 貨幣はコントロールできるものか

これは、近代まで多くの論争を生みました。

これが、通貨学派、銀行学派の論争です。

通貨学派      貨幣数量説。人間の英知で貨幣流通量を適量に調整する、すべ

きである。ピール、オーバーストーン、ヘンリーメーレン⇒現代のフリードマンへ。

通貨学派 貨幣数量は人為的には調節できない。貨幣は物価、利子、その他の経済的要因（神の見えざる手）により自動的に収束する。  
トーマスツウク、ジョンスチュアートミル⇒近代マルクス、現代ケインズへ。

すなわち、①国、政府に貨幣調節を委ねると為政者により恣意的に運用される。②このため、貨幣発行を特定の機関、中央銀行（銀行券）や民間銀行（信用創造）に限定し、政府とは独立した意思、政策により直接、間接に市場の紙幣流通量を制御することにより、インフレ、デフレ状況をうまく解決する、という政策論争です。

過去、政府自ら政府紙幣を発行しようとした為政者、リンカーン、ケネディ共に反対勢力により発行前後に暗殺されました。私の知る限りでは、一人、ヒトラーのみ強大な権力（全権付与法）を背景にシャハト総裁率いるライヒスバンクの新紙幣（レンテンマルク）発行により（有効需要創造政策と相まって）超インフレを克服したように思います。『ヒトラーの経済政策』『ヒトラーとケインズ』等の図書を参考にしてください。

難しい経済・金融をわかりやすく図解すると、以下の通りです。

物々交換 商品Aの需要（供給）=商品Bの供給（需要）

貨幣経済 将来の需要+今の需要⇌今の供給+将来の供給  
貯蓄 在庫

**受給バランスが取れず、貯蓄、在庫が発生する**

（共産主義下の計画経済でも事実上不可能）

貯蓄・貨幣過剰⇒ 在庫過剰⇒

インフレ、物価上昇 デフレ、物価下落

貨幣の調節はある程度可能

在庫の調節は不可能

**人類は金融政策を考案**

（例、豆腐、米、野菜）

何故、貨幣をコントロールするのか？

インフレ、デフレを避け、適正な物価水準を確保することが、あまねく公平な富の創造、配分、保有に資する。

誰が貨幣をコントロールするのか？

近代以前は、貨幣鑄造者の意思、恣意

近代は、法律による。政府か中央銀行か？

|    |            |             |
|----|------------|-------------|
| 日本 | 紙幣＝日本銀行券   | 日本銀行の管理     |
|    | 硬貨＝政府補助貨幣  | 造幣局の管理      |
|    | 電子マネー、地域通貨 | だれがどう調節するの？ |

どう貨幣をコントロールするのか？

近代

|                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 金・銀保有量で量的調節     | 金鉱山発見・枯渇で暴力的な調整もあり |
| 金匠・両替商の格付・免許で調節 | 為政者の作為が働き難しい       |

現代

|         |                         |
|---------|-------------------------|
| 金利政策    | 超低金利下では不可能（ケインズ流動性の罭）   |
| 預金準備率操作 | 預金取扱金融機関しか操作できない（他は野放し） |
| 公開市場操作  | インターバンク市場、オープン市場まで操作可能  |
| 商品券等    | 担保・保証金の範囲内              |
| 地域通貨    | 常識的な範囲内（商工会議所等）         |

## 第2話 評論家・思想史家の貨幣

### (1) 貨幣のあり方について

人類の英知の産物である貨幣は、正しくもろ刃の剣。

うまく使いこなせれば人類の繁栄に、下手にすると人類の不幸に。

私は貨幣思想家の構想に従い、貨幣の価値退蔵機能を否定したいと考えます。江戸子のように『宵越しの金は持たね〜』貨幣を長く持ち、蓄えれば蓄えるほど、時間の経過とともに、貨幣が減価していく（今 100 の貨幣は消費しないと 1 年後には 98 に、2 年後には 96 に減価します）システムを構築します。すると、国民は、貨幣を退蔵、死蔵しなくなります。消費、投資に充てられる結果、デフレ、インフレは解消するでしょう。

## (2) 思想家・理想家が見た貨幣

この発想は、ミヒャエル・エンデ（「はてしない物語」の作家）の「利子を生まない貨幣論」、ルドルフ・シュタイナーの「老化する貨幣」、マルグリット・ケネデイの「利子ともインフレとも無縁な貨幣」（交換機能のみに限定したお金のシステム）、ゲゼルの「時とともに価値の減る自由貨幣」等によります。

ドイツ・バイエルンに位置するシュバーネンキルヘンでの自由貨幣の試み（1929~1931）、オーストリア、ザルツブルグ近郊のベルグルでの試みがあり、注目されています。

研究者は何故か議論されませんが、また、関係資料が抹殺されているため確認できませんが、当時の若きヒトラーは政府に頼まれてバイエルン地方の労働者党の内定・スパイをしており、スパイ活動の中からこの貨幣運動を知り、これならユダヤ資本家によるドイツ民族の搾取を止めさせられると思い、ドイツ労働者党の綱領、マニフェストに盟友ドレクスナーが「利子の付かない貨幣発行」を盛り込み、実行しようとした。その後、国家社会主義ドイツ労働者党、すなわちナチ党としての最終綱領では資本家の利潤没収条項が入り、削除されます。ドレクスナーは最後まで抵抗したようですが、突撃隊の脅しに沈黙し、最終綱領もクルップ財閥の献金により事実上、反故にされたようです。NHK『エンデの遺言』その他を参照してください。（個人的な思いです。確証がありません。）

ダグラス理論では、中央銀行でなく良識ある政府自身が貨幣、紙幣を創出し、調節し、回収します。正に、政府管理通貨制度です。

ケインズの提案通り、一国内も、世界全体（国際通貨基金発行の世界的なバンコール）も制御可能としたら、素晴らしいものとなりましょう。（ちなみに、私は、学生時代、利子の付かない（むしろマイナスの利子の付く）貨幣、紙幣を提案し、ニツコールと名付けました）。

私利私欲のない為政者（神に近い）なら可能でしょう。

ダグラス、ケインズの貨幣論では、政府が経済を完璧に近くコントロールできる権力、国民に支持された権力を持ち、きわめて数学的に財政出動、政府紙幣発行量を調節出来ることが必要です。独裁者でなく、国の頂点に立った人間が個人の欲得なしに無私で調節出来るかが課題です。国王、首相、党が善良とは限らないからです。

貨幣の調節は、大変難しい問題提起であったことは、間違いありません。経済・金融学者より思想家、芸術家の構想が優れているように思えます。

## 第3話 蓄財 ―資本の本源的蓄積―

### (1) 蓄財は必要不可欠

マルクスは資本論において、「資本の本源的蓄積」を論じています。

二宮尊徳翁の言動、「積小為大」（こつこつと小銭を蓄えまとまった資本にするように努力する）旨の提言と実践は、正しくこの「資本の本源的蓄積」を提唱したものです。

元禄時代の名コンサルタント井原西鶴は、「新長者教」（後に、日本永代蔵）において蓄財の秘訣、長者丸の処方箋と毎日忘れずに飲み続けることを提唱しています（日本永代蔵は解放経済となったロシヤで、モスクワ大学等で講義されたそうです）。「新長者教」の優等生の代表格が三井、住友、鴻池です。

- ・ローマは1日にしてならず。
- ・財無くして業を成すことあたわず。もって、蓄財に徹すべき（宮本武蔵）
- ・質素儉約。ただ、ひたすら蓄財に徹しろ（三井、安田、川崎、大倉、山崎）
- ・浮利を追わず（住友）
- ・義を争い、利を争わず（住友）

このようにして、創世者は、メジチ家、ハプスブルグ家、ロスチャイルド家、フランクリンなどなど古今東西を問わず、蓄財に徹して大成したのでした。

### (2) 無限の蓄財は有害

さて、蓄財に必要なことは、目標額と達成後の活用です。

1個人、家計、企業、国家、全ての組織体は、その血液とも言える貨幣をより多く保有することが求められます。最初は、当座の準備に（次の収入が確保されるまで、例えば、次の給与・年金が入るまで、原始的には次の収穫まで）、次に中長期目標・計画準備に（例えば、持ち家、独立創業、新機軸実行、富国強兵のため、この場合、消費・需要を抑制して目標金額までひたすら貯蓄）、最後には無目的に蓄積（「多い事は良いことだ」とはいえない、例、日本の巨額の外貨準備の大部分はアメリカの連邦準備銀行の地下金庫に、まさに質にとられ、退蔵されたまま、生きた利用ができない）することになる。

北条早雲は、「貯めろ。しかし、貯めるは3代まで。」と家訓に明記した。後継者3代までは、必死に貯めた。4代、5代はどうしたか？「もう貯めなくていいんじゃない？」と浪費に走り、国を傾けた。早雲の弱点は「4代以降は、蓄財



した資金を天下国家、特に文化（メセナ）事業に利用しなさい」と事細かに家訓に書き残さなかったこと。

カルタゴがローマに完ぺきにたたかれたのは「カルタゴ、フェニキア民族が貯めることしか知らない（遊ぶことを知らず、節約・勤勉・蓄財に徹し、多額の戦時賠償金をあつという間に完済してしまう。ギリシャのように文化、芸術等にお金を活用しない、ローマを包囲する後進国にODRして多面的外交、包囲網を構築しない）ためであったと言えます。

### **(3) 個人の適性な貯蓄額**

日本銀行、総務省等の統計では、個人家計1世帯の貯蓄保有額は1,500万円。定年退職世代でも2,000~3,000万円です。年収の3年分が適正と誠しやかにささやかれた時期がありましたが、持てる家計、持たざる家計が峻別されつつある現在、統計、アンケート調査では分析不可能な状況にあります。

仮に、努力して成功、蓄財したシニア世代とします。あと、10~20年間の必要金額（公的年金で不足する生活費用）は予測可能です。

北条早雲で説明したとおり、サムマネーは絶対必要ですが、必要以上のマネーは子供に生前贈与して若き世代に有効に活用してもらうか、これと思う処に寄付、ふるさと納税して活用すべきでしょう。

最後に私の好きな言葉をひとつ。

**『金持ちがつつましやかに暮らす必要がないのと同じように、つつましやかに暮らせる人は決して金持ちになる必要がない』（ベンジャミン・フランクリン）**

### **蛇足 あなたの納めた納税金額はいくらですか？**

家計簿を付けない、付けても累計できない方、家計が大多数。

生涯の家計収支を記帳している方、国、地方自治体に所得税、住民税、固定資産税、自動車税、消費税、健康保険税（料）、雇用保険料、、、生涯にいかほど収めたかご存知？ どんだけー？ 愛飲家は酒税、愛煙家は煙草税も加えて。

財務省の公表資料でも、国民負担率は平成21年度で38.3とされています。あなたの納税負担はどんだけー？ 多いと思いますか。少ないと思いますか。

奈良・平安時代は？ 北条早雲、長宗我部元親の民生家は4公6民。 何と秀吉時代は2公1民。 江戸時代は藩毎に4公6民、5公5民（幕末、川中島村は48.2%）を思い浮かべて、今こそ、税・社会保障の一体改革を検証・検討してみましよう。